

# 「社会に貢献できる人材の育成」を目指したキャリア教育計画の推進

## 1. はじめに

本校の現状として、基礎学力が不足している生徒や目的意識が希薄なまま入学してくる生徒も少なくない。また、卒業後は多くの生徒が就職するが、早期に離職するケースもみられる。これらの課題を解決するため、更なるキャリア教育の充実が必要とされてきている。

本校・設備システム科におけるキャリア教育の目標は、生徒自らが「自分らしい生き方」を見出し、社会で逞しく生きていく力を3年間で身につけていくというものである。そこで、卒業後を見据えた計画的なキャリア教育を推進するため、我々は埼玉県教育振興基本計画、本校の目指す学校像を踏まえ、「社会に貢献できる人材の育成」を学科キャリア教育計画目標として掲げている。平成23年度から、学年、分掌と連携を取りながら、計画的、継続的に実践している。

以下に、「3年間を見通したキャリア教育計画の推進」、「職業観・技術力向上のために」、「卒業後を逞しく生きるために」といった3つの観点から、本学科のキャリア教育に関する取組を示す。

## 2. 3年間を見通したキャリア教育計画の推進

生徒が成長の過程を段階的に実感できるテー

埼玉県立浦和工業高等学校教諭 村田 憲一郎

マを学年、学期ごとに定め、入学時に3年間で取り組むべきキャリア教育計画を明示、説明している。このテーマを教室や実習室等に掲示することにより周知徹底し、学校生活のあらゆる場面において生徒の意識づけを行っている。

### 1学年 1学期 「高校生活づくり」

1年1学期のテーマを「高校生活づくり」とし、身だしなみを整える、挨拶をする、時間を守るなど高校生活を送るうえで必要な習慣を身につけることを目標としている。授業を中心に学校生活のあらゆる場面で指導し、生活習慣の改善を図っている。

入学直後、学科の新入生を対象とした面談を学科全職員で実施している。状況把握と高校生活に前向きに取り組めるよう“励ます”ことに重点を置いた面談を丁寧に行った結果、以前より高校生活に対する意欲の向上が図られた。また、成績不振を防ぐため、早朝の朝学習を年間通して行い、中学校以前の基礎学力を補っている。

### 1学年 2学期 「チームワーク」

本学科では体育祭・文化祭などの学校行事に特に力を入れており、2学期はそれらの行事を通してクラスのチームワークを高めることを目標としている。クラス一丸となって行事に取り組む、一人一人がクラスの大切な一員であるこ

とを認識するとともに、チームワークの重要性を実感する。この時期にクラスの一体感を味わう事によって良好な人間関係づくりに繋がり、2学年でのアーチ製作への基礎をつくる。

また、学科独自の行事として9月に全学年合同集会を行っている。文化祭や体育祭への取組など、2、3年生から1年生へ向けて紹介し、意見交換を行う。学年を超えた連携を図り、より学科としての結束力を強める。

#### 1学年 3学期 「工業人」

学校生活も軌道に乗り落ち着いた学習環境が整ってきたところで、工業人としての自覚をさらに持たせるため、実習を中心に工業人としての資質を養う指導をする。安全や環境に配慮しながら、心を込めて“ものづくり”にのぞむ姿勢を身につけさせる。

#### 2学年 1学期 「コミュニケーション」

社会人として必要なコミュニケーション能力が身につけられるよう、相手や状況に応じた適切な言葉遣いや気持ちのよい挨拶、返事ができるよう日頃から繰り返し指導する。また、進路を見据えた社会常識、礼儀やマナーを身につけさせるよう、LHRを中心に学校生活全体を通して具体的な事例を交えながら指導する。

#### 2学年 2学期 「ものづくり」

本学科では2学年での文化祭校門アーチ製作(図1)が伝統となっており、毎年クラス一丸となって製作している。クラスリーダーが率先して企画・立案し、1学期から放課後、夏季休業を利用して、時間をかけて製作する。アーチ製作を通してものづくりの楽しさを実感し、来場者に驚かれ喜ばれる作品を製作するとともに、チームによるものづくりの感動を経験する。

#### 2学年 3学期 「生き方、在り方」



図1 平成25年度文化祭校門アーチ

インターンシップ(図2)、進路ガイダンス、進路面談などを通じて様々な職業に触れ、自らの生き方、在り方を考え、これからの自身の人生、進路について真剣に考える。自らの適性を把握しこれまでの成長を確認するとともに、進路への明確な目標を立て、進路実現に向けての心構えと準備を始める。

#### 3学年 1学期 「進路選択」

今までの高校生活における様々な経験の集大成として、適切な進路指導を行う。三者面談等を通し、保護者とよく話し合いながら将来の自分を考え、やりがいの持てる進路選択をする。夏季休業中に就職者登校日を多く設け、会社見学事前指導、履歴書作成指導、面接指導等、就職試験に向けての対策を本格的に始める。



図2 インターンシップ(建設現場)

### 3学年 2学期 「進路実現」

進路実現に向け、就職内定を目指し、学科一丸となって臨む。特に面接指導には力を入れ、しっかりとした考えと熱意が伝えられるように繰り返し継続的に指導する。この頃には生徒が主体的に取り組む姿勢がみられるようになり、進路意識が格段に高まってくる。今までの成果を就職試験において大いに発揮できるよう、進路実現に向けて最大限の努力をさせる。

### 3学年 3学期 「感謝」

高校生活で得たこと、成長の過程を振り返り、「社会に貢献できる人材」になり得たかどうかを認識する。母校訪問として自身の出身中学校へ赴き、自身の成長を実感させる。また、「先輩に学ぶ」を通し、後輩へアドバイスを送る。今までお世話になった保護者、学校、友人、地域などに感謝の気持ちを持ちつつ、自らが社会を担う一人であることを自覚し卒業する。

## 3. 職業観・技術向上のために

社会に貢献できる人材になるためには、望ましい職業観と即戦力となる技術力を育成する必要がある。キャリア教育計画に則り、本学科では外部機関と連携した事業に率先して取り組んでいる。

### 地元企業との連携

本学科ではさいたま市商工会議所と連携したインターンシップやデュアルシステム、地元企業への職場見学を積極的に実施している。インターンシップは実施当初は希望者のみであったが、平成22年度から2学年全員が対象となり、現在では70社の企業で実施するほどに規模を拡大した。また、職場見学では、平成24年度本学科入学生に関しては、1学年で2回（ビルメンテナンス業か設備工事業を選択、製造業）、2学年で2回の職場見学を行った。



図3 「建築配管」技能検定講習

事前・事後指導を計画的に行うことにより、職業観の育成が図られた。また、学校、企業が綿密に連携し現状を正しく理解しあうことにより、進路選択の際のミスマッチを減らせている。

### 技能検定・資格取得の活性化

本学科では、3年前まで技能検定の受験指導は行っておらず、受験者もいない状況であった。そこで、技能検定への取組を活性化するため、職業能力開発協会「若年技能者人材育成事業」と県の事業である「実践的職業教育グローバル事業」を活用した。定期的なものづくりマイスター（技能指導者）を招いて技術指導を行い、「建築配管（図3）」「冷凍空調和機器施工」の3級技能士検定へ向けた技能向上に取り組んでいる。外部講師による指導を受け、平成24年度には3年生が受験し合格者を出すことができ、以降継続して取り組んでいる。また、第2種電気工事士の取得に向けての補習については以前より更に充実させ、合格者を出している。

これら取得可能な資格を年間予定として月ごとに示し、常に目標を明確に定めさせるなど、資格取得への意識づけも積極的に行っている。

### 熟練技術者からの技術伝承

熟練技術者からの技術伝承の場として、県の事業である「プロフェッショナルに学ぶ」を活用し、埼玉県空調衛生設備協会の協力のもと、

エアコン取り付けの技術を学んでいる。また、埼玉県建設業協会の出前授業、現場見学会も1学年を対象に実施し、建設業の魅力について意識づけをさせている。

#### 4. 卒業後を逞しく生きるために

キャリア教育を推進していく中で、早期の離職を防ぐためには高校生活と社会人生活との間のギャップを埋め、在学中に社会に関わる経験を多く積ませる必要があると考えた。

社会人としての心構え、働く上での知識や知恵をより一層身につけさせるため、以下の取組を学科または全校でおこなっている。

##### 「社会人になる前に」学習会と「先輩に学ぶ」

卒業を間近に控えた3年生を対象とした『「社会人になる前に」学習会』を実施している。まず1部として、働く上で知っておくべき法律を学ばせるための、「労働基準法」についての講座を埼玉県産業労働部の協力のもと開いた。2部として、弁護士や貧困問題に詳しいNPO法人代表を招き、講演会・パネルディスカッションを実施した。多くの意見交換、アドバイスを受け、社会人になるにあたって様々な不安を抱える生徒にとって大きな励み、自信となっている。

また、学科独自の行事として、卒業を控えた3年生から後輩に向けてアドバイスを送る「先輩に学ぶ」も3学期に実施し、1、2年生への進路意識の向上に努めている。

##### 卒業生の現状追跡調査

本校キャリア教育における課題を把握するため、卒業生を対象とした「追跡調査アンケート」を実施した。社会で活躍している、もしくは何らかの理由で離職した卒業生の現状と原因を分析することにより、在学中に身につけさせるべきことを考察し、在校生へのキャリア教育改善につなげた。今年度は実施していないため、再



図4 公民館文化祭ボランティア

度、実施に向け検討する。

##### 公民館文化祭ボランティア

平成24年度より地域の公民館と連携したボランティア活動(図4)を実施している。近隣の公民館の文化祭に生徒が参加し、学科の展示物を説明するとともにイベントの手伝いをする。生徒は地域の方たちとの交流を通して達成感を味わうとともに、コミュニケーション能力、主体性、行動力などの社会性を養うことができた。

#### 5. おわりに

平成23年度から始めたキャリア教育計画だが、実践以前よりも中途退学者、原級留置となる生徒が大きく減少した。学校生活に対して目的意識を見出せる生徒が増えてきており、学習意欲、進路意識、部活動加入者、資格取得率など大幅に向上し、多大な効果を上げた。職業観も高まってきており、今年度は多くの生徒が学科に関連する職種に就職が内定している。生徒の変容により学科が明るくなり、教員のキャリア教育に対する意識も向上してきている。今後も社会に貢献できる人材を育て続けることが工業教育の発展に繋がり、日本の経済を明るくしていくものと考えます。今後もより効果的なキャリア教育を模索し、推進していく。